

会議録

会議の名称	男女平等参画推進委員会 平成20年度 第20回
開催日時	平成20年7月9日（水曜日） 午後7時から9時まで
開催場所	インゲビル3階 第3会議室
出席者	委員：池田委員、青木委員、渡辺委員、赤石委員、西山委員、中村委員、角田委員、高木委員、北條委員、虎頭委員 事務局：飯島課長、寺嶋係長、岩田主査、インテージ2名 欠席：荒井委員、富田委員、蚊野委員
議題	1 第19回男女平等参画推進委員会会議録の確認 2 第2次計画案検討 3 その他
会議資料の名称	資料No.1 第19回西東京市男女平等参画推進委員会会議録 資料No.2 5月22日付朝日新聞切り抜き
記録方法	全文記録 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録

会議内容

発言者名：発言内容

《開会》

1 第19回男女平等参画推進委員会会議録の確認

委員長：定刻になったので始める。新しい計画案の議論を一通り終わらせたいので協力をお願いする。まず事務局から連絡がある。

事務局：（1）6月26日に関係課長14名に原案を示し、関係課での議論をお願いした。次回会議までに関係各課からの意見・要望・申し入れ等を集約する。（2）19年度の実績だが、昨年の組織改正で業務の入り練りがあり、承知できていないところがある。もう少し待ってほしい。（3）男女平等推進センターの企画運営にあたり、公募で委員8名を採用し運営委員会を設置、2回目の会議を終了した。センターでの講座等、イベントや情報誌の発行について議論している。今日は勉強を兼ねて3名傍聴にいらしている。

委員長：事務局より3点報告があったが、それについて何かあるか。

委員：課長会議で素案を出された際に、何か意見等はなかったか。

事務局：会議では、経過の説明が主であった。一点だけ、「家庭生活を豊かにする男

女平等」の中の福祉系のネットワークの構築について、「拡充」となっているが、市ではある程度進んでおり、改めて載せるのはどうかという意見が個人的な感想としてあった。今後、各課長が現場に持ち帰り、1カ月程かけ状況判断をしていくことになる。

委員：そういう意見は、率直に言っていただいたほうがよい。

事務局：旧姓使用の件を会議の中で提案した。職員の労務管理をしている職員課からは異論はなく、逆に職場の女性の中から、旧姓使用について取り組んでほしいという要望があるとのことだった。システムの改築等が伴う可能性もあり、財政部門で男女平等担当や企画政策、総務・法規関係を集めた検討会の立ち上げの話も出た。

委員長：次回の会議の際に、各課からの意見を集約してもらおう。
議題に入る。前回の会議録で何かないか。
意見がないので会議録は承認とする。

2 第2次計画案の検討

委員長：第2次計画案だが、前回は(13)性と生殖に関する健康支援の前文まで検討した。13-2の主な取り組みの追加提案から説明をお願いしたい。

委員：性と生殖に関する健康支援の施策の2つ目が、専門外来と予防と検査しかないが、現在出産に関わる産科不足が言われており、「関係機関、団体と連携し、特に母子の生命身体に影響の大きい周産期医療の充実を図ります」と項目を追加してはどうか。里帰り出産を希望すると、出産する場所で検診を受けるよう断られる。遠距離の中、検診を受けに行くか、親元で産まない選択を迫られる。検診しないと出産に関する安全が確保出来ないからと出産を断られ、たらい回しになっている。周産期医療は手薄である。

委員：実家に帰っても産む場所がなく、親が婦人科に相談に来るケースが多い。

委員：いずれにしても産科医師が足りない。命に関わることであり、何らかの形でサービスの向上が出来ないか。

委員：現代社会や未来の課題であるが、行政ができることとなるとサービスの充実ではない。仲を取り持つくらいのものであるが、担当課としてはどこになるのか。

課長：受け手は子ども家庭支援センターとなる。

委員：「充実」とすると行政が行うよう聞こえるので言葉の工夫が必要である。

委員：仲立ちとして情報提供をすることがほしいが、行政ではそういう課題はないのか。

事務局：妊娠期に検診料など医療費がかかり過ぎる嫌いがあり、検診しない人がいる

ため、啓発や無料で見られる検診枠の拡大を検討している。

委員：出産は私事扱いで経済的な負担が大きい。検診せず最後になって病院へ駆け込み、断られ、たらい回しになるパターンが多くなっている。検診に対する啓発、手助けは必要である。

事務局：母子の安全を見守るネットワークや3カ月までの訪問看護のサービスがあるがプライバシーの問題もあり、利用は本人任せで一方通行になりがちである。育児指導等制度はあるが課題である。

委員：保健所でパパママ学級があるが、もう少し啓発活動に力を入れてほしい。行政でできることは情報提供とPRである。

事務局：意識啓発やPR、適度な検診はできるかも知れないが、一自治体だけで取り組める部分は余りない。

委員：産める産科が少ないこと、産む場と産むまでの生活の場が違ってしまうこと、全てをひっくるめて啓発する。出産までの間に抱えている問題等もあり、きちんと分かっていたかのために、どこかで情報提供できるよう明記する。

委員：妊娠は病気ではないという捉え方で軽くみられるが、個人によっては軽いという事態が非常にある。

委員長：施策の内容と主な取り組みへの提案は、「充実」でなく何とするか。

委員：周産期医療に関する情報提供、意識啓発ではどうか。無料の検診枠を広げるといふにはフィットする。

事務局：検診の機会や妊娠教育の際に何かを配って啓発する程度である。

委員長：「女性専門医療の充実に向けた取り組み」の施策の内容に「また、女性にとって妊娠・出産の安全性と快適さを確保するための周産期医療の情報提供及び啓発に努めます。」と入れ、取り組みに「周産期医療サービスに関する情報提供・啓発」と入れ、主たる担当課は子ども家庭支援センターとする。13-2は簡略化して追加とする。

委員：乳がん検診は40歳以上が対象だが若年の乳がんが増えている。マンモグラフィーの検診は自治体毎に充実してきているが検診率が上がっていないので、対象年齢を少し下げ回数を増やしてはどうか。

事務局：マンモグラフィーは通常の触診による検査に比べ金額が高く、各市負担を求めるケースが増えてきている。西東京市は無料で検診しているが、無料のためか、再検査を勧められても行かない場合もあり、課題となっている。マンモグラフィーを持っている病院数が少なく、受け皿を増やせない実態があり、難しい。

委員長：要望があっても行政で掲げるとなると病院の問題とも直結してくるが、どうするか。

委員：数値目標を入れているわけではないので「充実」と入れることには、今後5年間のためにはよいと思うがどうか。

事務局：現市長は政権公約の中で無料と謳っているが、市が市長就任前から行ってきた行革の中では、少額負担をしてもらい本人に意識を持たせるといった意見があり、整合されていない。市長の任期中は無料だと思うが、5年間の近隣市の動きや少額負担してもらい回数を増やすという方向性も検討したい。

委員：主な取り組みの3つ目の項目に「子宮がん〜」とあるが、ここに入れてはどうか。

委員：乳がん等は30代でも増えてきている。充実の意図は、年齢の幅を広げることと、無料検診の周知をもう少しきちんとやってほしいということである。

委員：数値目標が入っていないので、今の文言でどうか。

委員：対象が40代以上ではなくなってきており、そういう意味内容で健康年金課とやりとりをしていく必要があると思う。文言として書き込みにくいならこのままで構わない。

委員長：具体的にどこまで行政として出来るのか。無料検診のままの拡充なのか、若干自己負担をしながら幅を広げていくのか、それも合わせながら充実の中身を健康年金課と議論し、希望を伝えていくということで、文言はこのままでよいか。

事務局：無料とは税金を投入することである。財政の厳しい中で、特定の人利益を受けることに対し税金投入の是非が課題となっている。わずかでも一定の金額を投下して自分の健康を守るということで公平性が出てくる。この先ずっと無料という検診はなくなるのではないか。

委員長：健康年金課とのやりとりの中でこちらの希望を伝え、文言はこのままとする。
次14-1主な取り組みに「母子家庭の母への就労支援」を追加ということである。

委員：市報に今年度から就労支援を行うと出ていたが、これは5年前の計画から入れてほしいと要望していたものである。計画にも入れておいたほうがよい。

委員長：今までの主な取り組みの中に、「ひとり親家庭への支援」があり「ひとり親家庭就労支援」産業振興課、「就労援助と雇用促進」産業振興課がある。

委員：産業振興課ではなく子育て支援課で行うものである。

事務局：産業振興課はハローワークを活用した就労支援であり、ご指摘があったものは柱立てが違うのではないかと。

委員：母子家庭に特化したもので、手当を減らしたかわりに支援を行うという流れのものではないかと。

委員：就労相談ではなく就労援助であり、今まで産業振興課が行っているものはそのまま続けていただきたいが、子育て支援課が新しくプログラムを立ち上げるならば明示してほしい。

委員：子育て支援課は新規、産業振興課のものは拡充となる。

委員：雇用促進は経営者に働きかけるものである。

事務局：三鷹にあるハローワークの分室を田無庁舎内で情報提供している。母子家庭の支援はプログラムを作り、支援をしながら自立をしていくもので全然違うものである。

委員：それでは母子家庭の母への就労支援を子育て支援課でしっかり行ってほしいと明記すべきではないかと。

委員：経緯からいうと5年前から厚生労働省は自治体に計画をおろしていたが、西東京市は手を上げずにいた。知っていたので要望したが、どこも引き受け手がなく、子育て支援課も承諾せずにいたので、仕方なく産業振興課に入れていたが、今回は子育て支援課と明示できる。

委員長：では、5つめの欄を追加し、産業振興課の下に「母子家庭への就労支援」を「子育て支援課」で入れる。

委員：ひとり親家庭は父子家庭を含んだひとり親家庭である。

事務局：子育て支援課は母子家庭への支援、母子自立ということで行っている。

委員：母子家庭の母と入れないと、高齢者の母子家庭も沢山あり、子への支援と間違えられないかと。

委員長：「ひとり親家庭への支援」の主な取り組み5段目に「母子家庭の母への就労支援」「新規」で「子育て支援課」と追加する。
次、14-2、お願いします。

委員：高齢者支援の安全な暮らしということで、緊急通報システムを入れてほしい。それと防災時の高齢者の救済支援を充実してほしい。西東京市で現在、緊急通報システ

ムが普及されているかどうか不明だが、ぜひ入れてほしい。

事務局：システム関係は旧型のものは記憶にある。もう一点の防災時の救援システムでは、練馬区が災害時の援護を求める制度の登録を始めている。高齢者だけではなく障がい者等も対象とするが、行政側から発信すると個人情報の問題もあり、一方的に要援護と決めるのは難しい。練馬区のように募集をかけ登録する制度が始まりつつある。しかし、地域の繋がりが希薄になってきている中、登録者に対し本当に身近な人が援護に行けるかという問題もある。西東京市は危機管理室をつくり、検討を始めている。

委員長：高齢者・障がいのある人も含め、緊急事態時の危機管理、救済体制の確立の問題は男女平等の計画案ではなく、行政全体としての計画の中に入らないか。

事務局：地域防災計画の中にあるかも知れない。要援護に対する取組の検討は具体的にあり、対策もある。

委員長：高齢者だけでなく障がい者もあり、もっと広い西東京市の防災体制システムの確立の問題であり、そちらに要望をお願いするとし、ここには敢えて入れない。

事務局：次回までに調べる。市として計画を立てる動きがあれば、障がい者や女性への支援もあるだろう。

委員長：動いていればそこに要望を出していきたい。
次、(15)計画を着実にすすめる推進体制の前文である。

委員：2行目「～市民・事業者・行政の連携～」と、事業者という言葉が入っているが、施策関係は全部「市民・団体・行政」である。扉だけ事業者ではおかしいので、「団体」としてはどうか。次6行目にパリテの説明がある。「拠点」は「相談や情報発信・提供機能を強化していくことが大切」ということで、相談と情報しか書いていないが、(15)の柱で4つの施策を立てたのだから「相談・学習・情報・交流機能を強化するとともに市民が主体的に～～」と施策と兼ね合った文章にした。

委員長：前文に関して2ヶ所の提案であるが、事業者を団体に直すという提案について意見あるか。

委員：むしろ前文に団体・事業者の両方を入れるべきではないか。市民個人と団体グループがあり、事業者まで入れると市内の企業、機関まで含み込むので計画を着実に進めていくという意味合いとなる。ここでは団体も入れて網羅したほうがよい。交流ネットワークの「市民・団体・NPO」はそのままでよい。

委員：今の提案に賛成である。

委員長：提案を採用し「市民・団体・事業者～」とする。
次のパリテの内容について、「男女平等参画に関する拠点として、相談・学習・情報・

交流機能を強化するとともに市民が主体的に地域の課題解決に参画できるよう～～」と訂正でよいか。では提案どおりに訂正する。次15-1に進む。

委員：相談事業のワンストップサービス化の追加提案である。センターオープン時に、統合的案内所を設けるので事務所スペースを広くとると説明を受けた。困難を抱えて女性相談に来た人が、1箇所で用が足りる相談体制をとっていただきたい。他機関との連携は計画や今までの実績評価の中にも出てきており、ワンストップで済めばと思い提案した。

委員長：ワンストップはかなりオールマイティにいろいろ出来る職員やスタッフがそこに張り付くことが条件になる。

事務局：前回の議論でワンストップ化は保留にした。市ではワンストップ化に取り組んでいるが、相談業務は専門家がいないと難しいため、一つの窓口で全てを引き受けるのは無理である。パリテが出来、女性の相談と子供の相談は一つの窓口でできるようになったが、全部を一緒には難しい。また合併市のため、庁舎が2つあり、サービスも分散しておかないと市民サービスの低下になる。

委員：全てでなくてもいい。お子さん連れの女性で、子どもに関わることと福祉に関わること、自分自身の自立に関わることが全部分かれていると大変である。行政サービスの向上という意味で、子育てと就労に関してくらいは統合してほしい。

事務局：昨年7月に組織改正があり、女性と子供の問題はパリテで一緒に行うようになり効果が出ている。一方、母子の自立と女性相談が離れてしまったが、職員がために連絡を取り合い、連携していけばよいのではないかと。1箇所で済むのは理想であるが、難しい問題である。

委員長：「ワンストップ化」という言葉を入れると誤解が起き、意図が十分に伝わらないので、妥協案だが「充実・統合化」ではどうか。

委員：確かにワンストップサービス化とすると全庁的な意味合いと取られかねない。困窮度の高い人が相談に行くので、出来るだけ縦割りを廃止し、統合する。相談の多い傾向をまとめて寄り添ってほしい。

委員：ワンストップサービスとは統合するということではないのではないかと。

委員：統合ではない。あちこち回らずにそこでサービスが受けられるという意味である。

事務局：福祉側で地域福祉計画を作り始めている。逆の形で見えていくと、生活保護受給関係で相談に来た人が実はDV被害者というケースも出てくる。上位計画になるが、福祉部門で相談窓口の統一や拡充を議論していれば、こちらからも提案し一体とする。全部を統合するのは難しいが、利用者にとって利便性が高い組織にしていくのはよい。

委員：相談の質も大切だが、仕組みづくりを絶えず意識するというのはとても重要なことである。

委員長：相談者の便宜を図り相談業務をまとめた所で行える、そういうシステム作りが出来ればということである。妥協であるが、「統合化」を入れるのでどうか。

委員：誤解を受けるかもしれない。

委員：現状とかなりかけ離れているのではないか。市の中央に女性センターがあり、児童手当や生活保護の申請等は両庁舎という状況であり、目標と現状をつなぐ道筋が見えず、それなら女性相談を2つの庁舎に置いたほうが現実的である。パリテに相談窓口を置く限りワンストップはかなり厳しいと思う。情報をきちんと提供するのは最低限のレベルであるが、今の位置的な問題は本当に難しい。

事務局：何をどこで申請するかという話であったが、逆に何をどこに聞けばいいかわからない人がたくさんいる。田無庁舎に福祉や女性相談の窓口があるからと一時的に来た時に、次にどこへ行けばいいか、申請の手段等がきちんと伝えられれば困らない。

委員長：女性相談の充実とは具体的にどういうことか。一つの窓口で統合されることも必要であるが、場所的な問題もあり、今回は保留とする。具体的なものが見えてきたのであれば、次回にでも計画に載せてもらう。次15-1、説明をお願いします。

委員：「女性相談の充実」の施策の内容を少し変えてはどうかという提案であるが、今読み返してみると不十分であった。学校やDVのところを追加したい。

委員長：「職場や学校での～」とする。次15-4に進む。

委員：「交流とネットワークの促進の支援」の内容の文章部分を提案する。「また、センター利用者の意見を聞きながら～」となっているが、行政自身が前向きに考えることなので、「また、拠点施設としての機能を充実させます。」と訂正する。

委員：これは計画であり、行政が積極的にやっていくということを謳うと同時に、センター利用者の意見を入れるということを担保したほうがよい。「センター利用者の意見を反映させ」でどうか。

委員長：「利用者の意見を反映させ～」との修正でよいか。

委員：拠点施設とは女性センターのことであるが、「拠点施設としての」を「拠点施設の」と変えた理由は何か。

委員：こだわりはない。短くしただけである。

委員：「拠点施設の機能を充実させます」というと、どこかに拠点施設があるというニュアンスがある。女性センター自身の機能を充実させるという事であるならば、「拠点施設としての」という言葉のほうが分かりやすい。

委員長：（15）全体が男女平等センターの充実である。誤解されることはないと思うが、ここは「拠点施設としての」とする。次17-3に進む。

委員：再掲になるが、職業のところ「管理的立場の参画促進」を目指しているが、庁内の男女平等の推進で、管理的立場における女性職員の参画促進が施策の3にあるので「市女性職員の職域拡大・管理的立場への参画促進」と入れてはどうか。

委員長：どこに追加するのか。

委員：施策の「管理的立場における女性職員の参画促進」に、「市女性職員の職域拡大・管理的立場への参画促進」を追加してほしい。

委員長：施策は見出し的なものであり、長々としたものはスタイルが違う。3に文章を追加するのは意味合いが違ってくる。

委員：施策としてもう一つ作るか。

事務局：西東京市は事務系と福祉系職員の男女比が大変違うが、これは福祉施策に力を入れた結果、保育園等の数が他市に比べ非常に多くなった結果である。保育士の数が多いと、福祉系従事職員が増加する。私立に全て任せ、市が保育園を抱えていなければ女性比率は低くなる。市が施策に力を入れると職員数は増えざるを得ないが、その中でバランスの問題もある。最近、建築系で女性職員を採用するなど増えており、土木系など男性に特化していたところでも女性の採用をしている。

委員：まちづくりに関わる部署に、防災面からいっても女性職員がいるのはとても重要なことである。採用やポジティブアクションという意味でも、庁内の男女平等の推進という意味で大きいと思う。

事務局：男女比の問題もあるが、企画や財政にも女性職員はいる。以前より女性の課長も増えてはいるが、管理職は試験制度であり、前計画でも「試験を受けやすくする体制づくり」があったが、本人が受ける気にならないと無理である。

委員長：ここは現実的にすぐに実現するというより目標である。先ほどの私の意見は撤回し修正案を出す。「管理的立場における女性職員の参画促進および女性職域の拡大」とし、施策の内容は「～管理的立場にふさわしい人材の育成と職域の拡大に努めます。また、管理的～」とする。

計画案に沿った議論は以上とする。全体についての意見・疑問が出ているが解決している部分もあるので、もう一度目を通してほしい。

委員：先ほどの緊急通報システムだが、東京都の行動計画には高齢者住宅の提供等も載っている。男女平等とは関係ないが東京都の計画では載せているので、同等の扱いにしてほしい。

事務局：東京都も再掲的に載せているものが随分あると思うが、都の計画では東京消防庁が「高齢者の自立支援」という中で、緊急通報システムと火災安全システムの整備・支援を行動計画に載せている。

委員：緊急通報システムと防災時の救援体制を一本化し、行政の役割としてまとめることは出来ないか。2つを併記するのではなく、絞った形で表現できないか。

委員長：「防災時の救急支援体制の確立」とすると、内容は含まれるか。

委員：広く取れば含まれる。

委員長：行政全体で危機管理や防災時のシステム作りを行ってもらおうとし、緊急通報システム、火災通報システムを全部含んだものとして、「緊急時の救急支援体制の確立」を入れる。担当課はどこになるか。

事務局：危機管理室である。

委員：その他に関してだが、重点的な取組は太字表記になっていたが、一覧で見た時に重点的施策が担当課に分かりにくいようなので薄い網をかけてほしい。

委員長：重点施策が目立つように体裁をお願いする。

委員：重点施策が必ずしも重点施策として取り扱われていないが、重点として押さえておく必要がある。また、男女平等推進条例の検討は難しい状況もあり、課題として上げておくことは大切だが、最重点課題としなくてもよいのではないかと思う。

委員長：重点施策を目立つようにしてほしいということと、次回、重点施策をひとつずつ重点にすべきか確認していく。

委員：表示の問題だが、再掲の書き方を統一してほしい。

事務局：一定の議論が出揃った。原案を整理するが、重点施策をもう一度確認していくことが大事であり、編集については最終的に網かけで重点施策を表現したい。

委員：最近も岩手・宮城の内陸地震が起きたが、災害に対する女性の援護について、計画の中で「災害と女性」という言葉はあったか。

委員：10-5「活動しやすい環境の整備」の最後のところに「防災時の避難場所等現場での男女平等参画をすすめます」とある。

委員：もう少し踏み込んでどうか。避難所では子供の夜泣きで他の人が眠れないからと、乳幼児を抱えた母親のストレスが大きい。着替えにも不便があり、性暴力の被害も非常に多いと聞く。神戸や中越、今回の地震でもいろいろ情報が入ってきており、ここを特化するべきではないか。

委員：男女平等参画の計画で、防災について触れている自治体と触れていない自治体があるが、意識して触れているところもあると聞く。

委員長：話が重複するが、全体の防災計画や危機管理システムにどの程度きちんと盛り込まれているかにもよる。

委員：備品の中に生理用品や紙おむつを入れるということが進んでいるようだが、さらに女性がどのような要望を持っているかきちんと受け止められるよう、委員を入れるなどしてほしい。

委員：過去の大災害時の資料がたくさん残っているはずである。

委員長：次回は防災計画、危機管理システムについての情報をお願いします。全体の見直し作業は今回で終了とし、次回は重点施策を通して見直すことと、今日の議論を踏まえ、(1)から最後まで通して編集して戴き、目を通していく作業になる。

3 その他

委員長：来月は8月20日となる。

事務局：次回の会場は田無庁舎3階の庁議室である。

委員長：今日の委員会は以上とする。

《閉会》